

全ては繋がっている

志學館中等部 二年 谷口 たにくち 諒 まこと

人間が生活していく上で、水は必要不可欠だ。しかし、地球上には水不足で悩んでいる国、地域があると聞いた。小学校の頃に取り組んだ環境日記で学んだことも思い返して、インターネットや資料を使って調べた。

水不足が最も深刻な地域は、アフリカや中東などの途上国である。地球の表面の約7割は水に覆われているが、人間が使える水は川や湖、沼などにある淡水だけで、地球上にある水の0.01%と極僅かしかない。地球上で約22億人は、安全に管理されているきれいな水を必要なきに使用できないらしい。そのうち約1億4千万人が、湖や用水路などの処理されていない水を利用している。さらに、約6億7300万人は、近所に利用できないトイレがない。また途上国では、水を得るために遠くまで水を汲みに行っていることを知った。途上国で水を求めて水を汲みにいく

のは、主に子供の仕事になっている。往復平均6キロメートルを歩かなければならないらしい。私は先日、家族で登山に行った時に、1・5リットルの水を持って歩いた。それだけでも重くて大変だったのに、比べられないくらい重い水を持ち長い距離を歩いているのだなと思った。季節関係なく暑い時も寒い時も水を汲みにいかなければならない子供たちは、体力的にも精神的にも本当に過酷だと実感した。1日の大半を、水を汲みにいくことに費やすため、学校に通う時間がなく、教育もまともに受けることができない子供がほとんどだ。さらに、途中で暴力を受けることがあり、安全ではない水や不衛生な設備が原因となる病気によって死亡してしまう5歳未満の子供もたくさんいる。その人数は、1日に800人、年間では30万人もいる。このことを知って、自分の生活環境がいかにか恵まれているか感謝し、そしてどの国の子供たちも同じように幸せになって欲しいと思った。

なぜこんなにも水が足りない地域が増えてきているのだろうか。調べてみると、主に理由には3つあった。1つ目は、人口が増えすぎていることだ。生活や農業、工業にたくさん水をを使うため、人口が増え続けている途上国では水不足が深刻になっている。2つ目は気候変動による乾燥化だ。地球上には気候が変わって干ばつになりやすい地域、砂漠化が進む地域がたくさんある。3つ目は、水質汚染だ。水が汚れる原因には、ゴミの不法投棄や有害物質を含む排水の流出、プランクトンの発生などがある。近年、特に水不足が深刻化しているエチオピアでは、水を汲みにいくという労働の疲労を少しでも軽減するために動いているプロジェクトがある。イタリアの建築家が考えた「ワルカウオーター」というものだ。大気から飲料水を収穫するように設計された構造で、まだ完成はしていないが、1日平均50〜100リットルの飲料水を集めることができるらしい。この他にも、世界

の様々な国や企業、団体が解決に向けて動いていることも知り安心した。技術が発展して1人でも多くの人が救われてほしいと思った。そして問題を1歩でも解決に近づけるために私にもできることはないのか調べてみると、「食生活を見直す」というものがあつた。日本は海外からの食糧輸入量が多いためそれを減らして自国での生産を増やせば水不足で悩んでいる地域も水を利用できる機会が増える可能性があるそうだ。「地産地消」という言葉 テレビやスーパーなどでよく耳にする。その意味や背景を考えたことがなかったが、自分でも取り組める身近な方法があると分かり実行していこうと思う。

今回、水に関することを調べて気づいたのは、環境問題は全てが繋がっているということだ。日本では蛇口を捻ると水が出てくることが当たり前になっていく。しかし世界には水不足の問題を抱えている地域があることを頭に置いて、日常を過ごそうと思う。